

事業報告書

自 平成 30 年 4 月 1 日

至 平成 31 年 3 月 31 日

公益財団法人 和敬塾

1. 事業の概要

本年度におきましても、建塾の趣意に則り、その目的を達成するために「公益財団法人和敬塾 定款」第4条の各事業を行いました。

つきましては、これまで培って来た良き和敬塾の精神文化を継承しつつ、新しい時代に受け入れられる「共同生活を通じた人間形成の場」を作り、広く社会に和敬塾の存在を知らしめ、多くの塾生を迎え入れるとともに、前途有為な青年を輩出すべく、役職員一同、下記の事業に取り組みました。

次に、実施しました事業の活動の概況等を項目別にご報告致します。

(1) 学生寮並びに研修施設・体育施設・生活施設の運営（1号事業）

①共同生活の場である各施設的良好なる状態の維持の為の改修工事等

- * 学生ホール防火シャッター設置工事並びに浴室配管取り換え工事等を行った。
- * 空調設備、電気設備、エレベーター、給排水ポンプ、ボイラー、消防設備、特殊建物等の各種保守点検を行なった。
- * 空調機等の修理並びに取り換え工事を行なった。
- * 保護樹木の剪定を行なった。

②現有施設の保守並びに有効利用

- * ①項の各種工事並びに定期点検を行うと共に、主として和敬塾本館を収益事業として外部への貸出を行った。

③南寮と乾寮の統合に向けた準備作業

- * 統合推進チームによる打ち合わせを開催した。（今後の進め方、ロードマップ作成等）
- * 統合に向けた具体的な準備を行った。（寮生の交流、南・乾合同総会開催等）

④異寮の閉鎖に向けた準備作業

- * 寮生への説明と今後の具体的な閉鎖スケジュールを検討した。
- * 閉鎖に向けた具体的な準備を行った。（寮生の在寮確認、寮生引っ越し準備、寮事務所の閉鎖準備等）

(2) 入寮学生の共同生活による修養・研鑽への援助（2号事業）

①入塾式、塾祭、体育祭、予餞会、シンポジウム、日本伝統歳事の実施

- * 新入生受入れ行事を含む入塾式、創立記念塾祭、各寮対抗競技の体育祭、予餞会の四大大行事を企画し実行することによって自主性、協調性を養い、自らの人間形成に資するよう実施した。

②新入塾生に対する和敬塾設立理念並びに生活規範のオリエンテーション

- * 和敬塾設立理念等を理解させるべく新入塾生オリエンテーションを行った。
- * 生活規範への理解として、各寮においてオリエンテーションを行った。

③教養講座並びに教養活動の開催及び活性化

- * 入塾式の一環として教養講座紹介フェアを開催し、在塾生が中心となって模範演技等を行い各教養講座へ新入塾生の勧誘に努めた。
- * 各教養講座のより一層の活性化を図る為、師範・顧問・塾生が各講座の意義を共通認識して、積極的に参加を呼びかけた。

④塾生委員会が主催する年間行事の指導

- *各行事（体育祭・塾祭等）に関しては、その目的・意義を認識させ塾生が主体性をもって企画、実施、反省を行なうよう指導した。
 - ⑤一年生面談及び年末一・二・三年生継続面接の実施
 - *寮長、副寮長が、塾生と個別に面談し、それぞれの生活実態について話し合い、より人間的な成長を促した。
 - 具体的には、6月～7月にかけて新入塾生と面談し、面談内容をそれぞれの父母へ、大学生として初めて共同生活を体験したことにより起きた心の変化や成長を伝えた。また、12月～1月にかけては一年生、二年生、三年生と対話し、自分の役割や学年毎の役割を気づかせるとともに継続在塾の意志を確認している。
 - ⑥寮長及び副寮長による日常生活を通じた徳育指導
 - *各寮委員会の会議、各寮総会への参加並びに日常生活での様々な場面をとらえて行なった。
 - ⑦「和敬塾だより」の発行
 - *「和敬塾だより」第5号を9月に発行し、塾行事や新入塾生を紹介した。
 - ⑧塾友、外部との交流活動並びに研修会等への支援
 - *7月5日～6日にかけて、中華民国大学生訪日研修団と当塾塾生との交流合宿が和敬塾本館にて行なわれ、塾内見学、茶道体験、歓迎夕食会、討論会などを通して文化交流を行なった。
 - *塾友による企業説明会等が開催された。
 - ⑨塾友会（塾OB会）との各種情報交換並びに講演会等の共同企画
 - *和敬塾卒塾生のOB会である塾友会との連携を深めるため緊密な情報交換を行うとともに、「賀詞交歓会」、講演会を含む「ホームカミング大会」等への協力を行なった。
 - ⑩日本人学生と留学生との交流による相互理解の促進
 - *塾主催行事並びに各寮委員会行事、各寮の班行事への参加を通して相互理解を深めた。
 - ⑪所轄官庁の協力による防災意識並びに安全管理の啓蒙
 - *必要に応じて大塚警察署並びに小石川消防署、小石川保健所等から助言を受け防災訓練の実施等、防災体制の確立に努めた。
 - *防災倉庫、備蓄食糧庫、災害時用諸機材の点検などを定期的に行なっている。
 - ⑫地域社会との交流を目指した近隣文化活動等の実施
 - *塾生の地域社会に対する奉仕の実践の場として、地域の美化活動等を行なった。
- (3) 講演会・講座・討論会等の開催（3号事業）
- ①入塾式、塾祭、予餞会での記念講演
 - *後述の通り、各界の有識者をお招きして開催した。
 - ②役員並びに講師と塾生との懇談会並びに懇親会
 - *新・旧塾生委員会交代会等を開催した。
 - *講演会では、質疑応答の時間や講師との対話をする場を設けた。
 - ③塾生主催による講演会、シンポジウム等の定期開催
 - *異寮寮生による、学部生も参加できる研究発表会等を行なった。
 - ④在塾生の為の企業説明会
 - *外部の講師を招聘し、就職活動等に資する説明会を行った。
 - ⑤班会議並びに寮内討論会の開催
 - *各寮において、寮総会等を開催し、また、班会議も随時行った。

(4) 奨学金の貸与（4号事業）

①学部生11名、大学院生1名、計12名に貸与した。

(5) 東京都指定有形文化財「旧細川侯爵邸」の保存並びに活用（5号事業）

①本館文化財指定に基づく一般公開

*概ね毎月2回程度を目処とした定期公開等の自主公開並びに東京都主催による文化財ウィークにおいて一般公開を行なった。参加者は、約700名であった。

②塾生のための文化事業並びに国際交流の場としての活用

*中華民国大学生訪日研修団と塾生との交流の場として活用した。

*茶道部、坐禅道部等の会場として活用した。

*コンサート、演劇等文化的催しに塾生が参加した。

(6) その他、第4条の目的を達成するために必要な事業（6号事業）

①ホームページの継続的情報発信による募集活動

*情報発信力を高めるため、既存のホームページのほか、和敬塾公式 FaceBook、twitter、Instagramにて、随時イベントや、塾生の日々の生活を紹介した。

*募集活動では、塾友からの支援、塾生並びに塾生保護者からの紹介を得た。

*早稲田大学合格者に配布される冊子「学生寮のご案内」に大学提携寮として和敬塾の案内が掲載された。その他、在寮が二年間である早稲田大学直営寮の退寮者に和敬塾の案内を配布、また、留学生短期プログラムの宿舎として和敬塾を紹介等、早稲田大学との関係が深まった。

*テレビ朝日「Gomi is Money」(1/26)に協力し、和敬塾(南寮・乾寮)が紹介された。

*「学生会館ほっとステーション」「学生寮ガイド」等の学生寮情報サイトに登録した。

*東大生協パンフレットに広告を掲載した。

*不動産情報サイト「e-部屋探し」「学校から探す賃貸物件」に登録した。

②新規収益事業の開発

*使用中止予定の南寮棟、乾寮棟の活用を含めて検討中である。

(7) 講演会、シンポジウム、セミナー、文化活動

年 月 日	演題	講師	
平成 30. 4. 8 入塾式 記念講演会	JAL 破たんからの歩み～そして新たな企業文化の創造	日本航空株式会社取締役	大 西 賢
平成 30. 5. 13 創立記念塾祭 記念講演会	皆さんの健康はどう守られる？	塾友・杏林大学名誉学長	跡 見 裕
平成 30. 6. 5 シンポジウム	君たちは政治にどう向き合うか	学習院大学教授	野 中 尚 人
平成 30. 7. 4 シンポジウム	君たちは政治にどう向き合うか	早稲田大学本庄高等学院長	吉 田 茂
平成 30. 12. 9 予餞会 記念講演会	生涯チャレンジの時代	東京大学大学院経済学研究科経済学部教授	柳 川 範 之
平成 31. 1. 23 シンポジウム	激動する世界のなかの日本	Financial Sector Specialist at The World Bank	阿 由 葉 真 司

(8) 教養講座

一流講師の直接指導を受けて、合宿や会食も取り入れ、お互いに切磋琢磨をはかっている。実施した講座と講師は下記の通り。

(講 座 名)	(講 師)	(講 座 名)	(講 師)
茶 道	江川 宗京	書 道	岡本 光平
空 手 道	岡 精近	居 合 道	山崎 誉
中国古典輪読会	信夫 息游	絵 画 研 究 会	上葛 明広
直心影流法定	〃	坐 禅	高石 昭二郎
剣 道	塚本 博之	グレートブックス研究会	犬塚 潤一郎
柔 道	柏崎 克彦	英 会 話 教 室	Malcolm MacNeil

(9) 入塾選考

入塾選考は、入塾願書による選考の後、塾設立の趣旨、塾生活の内容を説明し、理解させた上で面接または書類選考を行い、入塾を決定している。なお、平成30年度の新入塾生は日本人新入生73名（春：新一年65名、新二年2名、新三年1名、新四年1名、院生2名 秋：二年1名、三年1名）、日本人再入塾4名、留学生44名の計121名であった。

なお、平成29年度の新入塾生は日本人新入生59名（春：新一年48名、新二年2名、新四年2名、院生6名 秋：新1年1名）、日本人再入塾8名、留学生30名の97名であった。

(10) 留学生に関して

平成30年度は、100名の留学生が在籍し、日本人塾生との共同生活並びに行事や教養講座への参加・活動を通して、日本文化への理解を深めている。また、早稲田大学および上智大学経由で短期プログラム留学生の紹介があった。

尚、平成29年度は74名の留学生が在籍した。(1～4ヶ月程度の短期生も含む)

大学別塾生数一覧表

(平成30年4月1日現在)

No	大 学	一年生	二年生	三年生	四年生	大学院	留学生	合
1	早稲田大学	22	10	13	16	7	30	98
2	東京大学	7	0	1	7	8	1	24
3	上智大学	3	1	1	1	0	13	19
4	日本大学	7	2	4	3	0	0	16
5	明治大学	2	4	5	2	0	0	13
6	学習院大学	1	1	3	3	1	2	11
7	法政大学	1	0	3	4	0	0	8
8	青山学院大学	1	3	3	0	0	0	7
9	慶應義塾大学	3	1	3	0	0	0	7
10	國學院大学	3	3	1	0	0	0	7
11	東京理科大学	3	2	1	0	0	0	6
12	成蹊大学	2	0	0	2	0	0	4
13	東洋大学	1	2	0	1	0	0	4
14	立教大学	0	1	1	1	0	0	3
15	専修大学	0	2	0	0	0	0	2
16	拓殖大学	0	1	1	0	0	0	2
17	中央大学	1	1	0	0	0	0	2
18	一橋大学	1	1	0	0	0	0	2
19	神田外語大学	0	0	0	1	0	0	1
20	国土舘大学	0	0	1	0	0	0	1
21	芝浦工業大学	0	0	1	0	0	0	1
22	首都大学東京	1	0	0	0	0	0	1
23	昭和大学	0	0	1	0	0	0	1
24	成城大学	0	1	0	0	0	0	1
25	玉川大学	1	0	0	0	0	0	1
26	電気通信大学	0	0	0	0	1	0	1
27	東京海洋大学	0	1	0	0	0	0	1
28	東京工業大学	0	0	0	0	0	1	1
29	東京歯科大学	0	0	0	1	0	0	1
30	東京都市大学	1	0	0	0	0	0	1
31	東京農業大学	1	0	0	0	0	0	1
32	東京農工大学	1	0	0	0	0	0	1
33	東洋学園大学	0	1	0	0	0	0	1
34	日本歯科大学	0	1	0	0	0	0	1
35	日本獣医生命科学大学	0	1	0	0	0	0	1
36	文京学院大学	1	0	0	0	0	0	1
37	武蔵野大学	1	0	0	0	0	0	1
38	立正大学	0	1	0	0	0	0	1
	合 計	65	41	43	42	17	47	255
	昨 年 度	48	42	38	59	35	54	276

2. 処務の概要

役員等に関する事項

(平成31年3月31日現在)

役職名	氏名	就任年月日	担任職務	常勤・非常勤
理事	前川 正雄	H24. 2. 1	理事長	非常勤
〃	佐藤 一義	H25. 11. 1	専務理事	常勤
〃	栃木 弘義	H24. 2. 1		非常勤
〃	奥島 孝康	H24. 9. 24		〃
〃	松原 達哉	H24. 2. 1		〃
〃	藁谷 友紀	〃		〃
〃	柳川 邦衛	H27. 6. 23		〃
〃	岩木 勅一	H28. 6. 27	南寮寮長	常勤
〃	加茂田 信則	H29. 4. 21		〃
〃	前川 正	H30. 6. 27		〃
〃	跡見 裕	H30. 6. 27		非常勤
〃	平沢 泉	H30. 6. 27		〃
監事	笠原 將敏	H24. 2. 1		非常勤
〃	山内 豊	〃		〃
評議員	加藤 英二	H24. 2. 1		非常勤
〃	河合 素直	〃		〃
〃	田島 信元	〃		〃
〃	細越 峻	〃		〃
〃	松岡 章次	〃		〃
〃	宮野 忠夫	〃		〃
〃	渡邊 重範	〃		〃
〃	石光 豊	H27. 6. 23		〃
〃	太田 朝生	〃		〃
〃	福原 毅	〃		〃

3. 役員会等に関する事項

(1) 理事会

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
平成 30. 6. 11	1. 公益財団法人和敬塾 平成 29 年度事業報告並びに決算報告の承認に関する件	原案どおり可決
	2. 理事候補者の承認に関する件	原案どおり可決
	3. 評議員候補者の承認に関する件	原案どおり可決
	4. 定時評議員会招集に関する件	原案どおり可決
	5. 塾の現状報告に関する件	報告事項
平成 31. 3. 22	1. 公益財団法人和敬塾平成 31 年度事業計画並びに収支予算の承認に関する件	原案どおり可決
	2. 公益財団法人和敬塾長期修繕計画(平成 31 年度版) 並びに資産取得計画(平成 31 年度版) の承認に関する件	原案どおり可決
	3. 任期満了に伴う次期理事候補者並びに監事候補者、評議員候補者の推薦に関する件	原案どおり可決
	5. 塾の現状報告等	報告事項

(2) 定時評議員会

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
平成 30. 6. 27	1. 公益財団法人和敬塾 平成 29 年度事業報告に関する件	報告事項
	2 公益財団法人和敬塾 平成 29 年度決算報告の承認に関する件	原案どおり可決
	3. 理事の選任に関する件	原案どおり可決
	4. 評議員の選任に関する件	原案どおり可決
	5. 塾の現状報告に関する件	報告事項

4. 附属明細書

平成 30 年度事業報告には、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第 34 条第 3 項にて規定される「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので、附属明細書は作成しない。